

宮崎県総合博物館 第3期中期運営ビジョン評価表(令和6年度)

評価欄の数値は4段階評価数値
 内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った
 外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要
 ※ 内部評価及び外部評価の総合評価は、平均値の小数点第1位まで(第1位を四捨五入)

☆外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

(1) 調査研究

項目	評価指標		令和6年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1) 調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要1回	①3月に「研究紀要 第45輯」(全12編)を発行。学芸業務に携わる全職員が執筆を行った。 ②J-STAGEでのオンライン公開に移行し、第45輯および過去の第30~42輯を公開した。	3	3.0	①一年ごと、或いは数年間の調査研究成果公表を、多くの職務をこなしつつ、県内外に足を運び、まとめておられる職員の皆様の努力に敬意を表します。今後とも、研修機会が広がることを期待します。 ②研究紀要を対象の全職員が執筆を行い発行できたことに、まずは日頃の皆さんの努力に敬意を表します。J-STAGEでの紀要公開が遑ってなされたことも、私としては大いに評価に値するものだと感じました。さらに遑っての公開に向けてご尽力いただくようお願いいたします。 ③研究紀要45輯は、学芸担当職員全員が執筆した充実した内容になっている。バックナンバーを含めJ-STAGEでオンライン公開されたことで、より広く閲覧されることが期待できる。調査研究報告会にZoomで参加できたこともよかった。外部の関係者も視聴できる貴重な機会なので、質疑応答をさらに充実させると実りあるものになると思う。 ④J-STAGEで既刊分の公開に着手されたのは大変良かったことで、今後も可能な限り公表されていかれることを期待する。調査研究報告会も学芸業務の職員全員が報告されたのも良かった。 ⑤多忙な業務の中で全員が執筆したことは評価したい。調査報告会を開催し、館外へ向けてのオンライン形式の活動も定着したものと評価したい。 ⑥総合博物館は、県内をリードする研究技術を有する学芸員集団として、県内の調査研究活動を充実したものにすると思われる。 ⑦報告会で皆さんの活動について教えていただけるのは、大変いい機会です。今年度もぜひZoom利用をお願いします。 ⑧神宮池にニホンイシガメがいて、うれしくなりました。ミズアオイは見てみたい花ですね。がんばって残して行ってほしいです。 ⑨博物館の『研究紀要(第30~45輯)』がJ-STAGEに公開されたが、多くの研究者に活用されるように関係機関にアピールされることを望みます。	3.5
	調査研究報告会	年1回	1回(3/11開催)	③学芸業務職員10名が、本年度の調査研究成果、展覧会、「みやはくデジタルミュージアム構築事業」について報告を行った。 ④館外関係者は利便性のためZoomでオンライン参加をいただいた。今回は、当館職員27名、博物館協議会委員4名、博物館等協議会加盟館員3名、県立図書館1名、博物館友の会会員2名、計37名が参加した。	3			

(2) 収集・保存

項目	評価指標		令和6年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1) 収集・管理	資料の収集	2,500点(年平均500点)	18,695点(5年間合計)	①令和2~6年度の資料収集、および収集資料の整理登録は目標値を大きく上回ることができた。 ②令和6年度の資料収集については、各部門で計12,100点の資料を収集した。主な収集資料は以下の通りである。 ③動物部門では1万点以上のベントス(底生生物)標本、植物部門では貴重な『大日本植物志』の寄贈があった。地質部門では、タルボサウルス頭骨化石レプリカの購入やフズリナ石灰岩などを採取。考古では伝持田古墳群出土の銅鏡・勾玉レプリカの所管替え、歴史部門では長久寺伝来の木造虚空蔵菩薩座像の寄贈、民俗部門ではひな人形・古民家模型・黒電話などの提供を受けた。 ④図書・文献の収集は、目標の5,000点には届かなかった。近年は寄贈図書が減少傾向にあり、PDFによる配信を行う館が多いことも要因と考えられる。今後も文献資料の収集を継続し、図書利用の充実を図っていく。 ⑤収集・登録資料は適切な環境下で保存し、展示・体験に活用していく。今後も引き続き資料所在情報の収集・館外調査を行い、重要資料の収集・登録に取り組む。また、未登録資料の整理・登録、デジタルデータ作成も進める。	4	3.3	①図書・文献を除いて、資料収集が目標値を大きく上回ったことはすばらしいと思います。 ②資料収集数は昨年度につづき今年度も多く、中期ビジョン5年間の指標(2500点)をはるかに超えた。収集した資料の整理と保存に問題のないよう、取り組まれることを強く希望する。また、これまでに累積されている未登録資料についても整理・登録作業を一層進められることを願っている。 ③資料寄贈の増加は、館の充実にとって好ましいことです。一方で、収蔵庫の収容能力の見直しも気になる場所です。 ④資料収集に関しては目標を大きく超える収集数になり、整理・登録作業が大変ではなかったと思います。 ⑤本年度の資料収集については、目標を大幅に上回る収集数と、収集資料の整理・登録も進んだことを評価します。一方、収集品の保管場所の新設や施設の拡張等は必要ないのでしょうか。 ⑥年々増える収集した資料を県民に公開していくことも大事だと思いますので、活用方法についてもぜひご検討をお願いします。 ⑦寄贈図書のPDF化が増えてきたことは、収納・管理上よいことだと思います。一般利用者への公開・活用も、ものによって配慮をお願いしたい。 ⑧図書・文献の収集が目標に届きませんでした。博物館の収蔵にも限度があると思いますので、ただ数を増やすだけでなく、必要な図書・文献をしっかりと見極めて収集することも必要だと思います。なお、PDFによる配信資料も1冊としてカウントしているのでしょうか?紙媒体に限ったカウントであれば、次期は電子媒体での収集も1カウントとするようにした方がよいと思います。 ⑨資料のデジタル化が進み、紙の冊子の収集件数が減っていることについては、現状に合わせて目標を見直してもよいのではないかと。ただし、デジタルファイルの資料が容易に閲覧できるシステムを作っていただきたい。検索などができるとさらによい。	3.8
	図書・文献の収集	5,000点(年平均1,000点)	4,563点(5年間合計)		2			
	収集資料の整理・登録	5,000点(年平均1,000点)	18,556点(5年間合計)		4			
	合計	(年平均2,500点)	41,814点					
2) 保存	トラップ調査	年12回	12回	⑥全職員によるIPMウォッチング、学芸課職員によるモニタリング調査を計画通り実施するとともに、日常点検も丹念に行い、虫菌害の発生を抑制した。 ⑦月1回、学芸課職員による収蔵庫の目視点検・清掃を確実に実施し、適切な環境の維持に努めた。	3			
	IPM ウォッチング	年12回	12回					

(3) 展示

項目	評価指標		令和6年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1) 入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	年平均17万人	本館入館者数 158,317人 民家園入館者 47,404人	4	3.5	<p>①本館の入館者数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた令和元～2年度は本館入館者数が大幅に減少した。感染症対策を実施しつつ事業を展開し、令和4年度には本館の総入館者数は149,424名まで回復したが、令和5年度の本館入館者数は106,112人に減少した。これは、年度後半に民俗展示室と特別展示室の屋上防水工事が実施されたため、貸館事業が実施できなかったことによる入館者の減少や、特別展の入館者数の影響を受けたためである。</p> <p>②団体利用は令和元年(平成30年)度に542団体の利用があったが、令和2年度は、コロナ禍により233団体に落ち込んだ。令和4年度は419団体まで、令和5年度は554団体まで回復している。</p> <p>③民家園は、屋外施設であり、コロナ感染症の期間も影響は少なかった。令和5年度の入園者数は50,515名であった。</p> <p>④常設展示室における資料入れ替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催などを行うことで、館内に変化を持たせながらサービスの向上を図り、SNS等を活用しながら多様な情報発信を継続している。</p>	3.9	
			合計 205,721人					
2) 常設展	展示替等回数	年15回	20回 動物 4回 植物 4回 地質 2回 考古 2回 歴史 2回 民俗 6回	4	<p>⑤自然史部門では、照葉樹林ジオラマで、照葉樹林に関連するナミアゲハなどの蝶類や鳥類、また児童が好きなクワガタや身近にみられる昆虫などの展示を行った。植物部門では、照葉樹林に関わるシロシャクジョウなどの菌従属栄養植物やキノコの展示を行った。地質部門では、特別展「化石タイムカプセル」に関連する県内各地で採集された資料の展示を行った。</p> <p>⑥歴史展示室のロビーケースでは、歴史部門が文書と脇差の展示を行い、考古部門では発掘された茶の湯に関わる資料や米に関する資料の展示を行った。</p> <p>⑦民俗展示室では、県の伝統工芸品の佐土原人形である節句人形、歌舞伎人形、風俗人形、縁起人形など6回の入替えをした。</p>	<p>①入館者数、常設展展示替え、共に指標を上回る数で博物館の皆様のご努力に敬意を表します。常設展は宮崎を知り学ぶ大切な宝箱であり、これからもそのあり方に期待し続けます。</p> <p>②特別展、エントランス展は数字の上で指標を達成している上に、たいへん充実した内容でした。</p> <p>③安定のSSP展、毒モンスターでは「毒」という普段の暮らしでは遠ざけがちなテーマで生き物に迫り、命の育みの素晴らしさを見せて頂きました。赤崎先生渾身のコンクリーションも、様々なコンクリーションや化石を見られたことはもちろん、その成り立ちなどを知ること地質や石、地球への興味や愛しさが増しました。</p> <p>④高校では地学を学ぶ生徒が減っていると聞きます。これからも地学に関する展示や講座を通して、子どもたち、もちろん大人も「地学」に接する機会を作り続けて頂きたいです。</p> <p>⑤令和6年度はさらにエントランスのインタラクティブ映像、フリーWi-Fi整備、多言語音声ガイドシステムと展示に関して大きく前進した年でした。</p> <p>⑥特別展「毒モンスター」展は、毒に対する意識を様々な視点から考えさせてくれる内容の深い企画であり、集客につながりました。また、「化石 コンクリーションの謎」展は身近にある深い価値を有するコンクリーションの存在を、世界的な視野から見直す研究で、地域を見直す話題性の高い企画でした。今後とも、よい企画をお願いいたします。</p> <p>⑦「毒モンスター水族館」の取組は工夫が大きく、入場者にそれが伝わったのだろう。映像コーナーも十分な見応えである。</p> <p>⑧毒モンスター水族館、美しいウミウシやクラゲの生体・写真なども含めて、楽しく観覧した。毒というテーマ、宮崎でも大変身近なことがよかった。化石タイムカプセルも、ぜひ県民に知ってほしい内容だった。ウォールミュージアムの設置は、子どもたちの興味も引くので、今後の展開も楽しみにしている。</p> <p>⑨ウォールミュージアムは、魅力ある博物館、子供の夢をふくらませる施設として効果が発揮できるものであると感じました。</p> <p>⑩主催事業である「毒モンスター水族館」展が入館者数増に大いに資したようで良かった。正直、無理があると感じていた入館者目標値を上回ったのは大きな成果であろう。館員諸氏の健闘に敬意を表したい。</p> <p>⑪入館者数が前年度より約5万人増加したこと、過去10年間で最も多い人数になったことはとても評価できる。主な要因は、特別展『毒モンスター水族館』が大好評だったものである。CMでもかなりインパクトがあり、興味・関心を引くものであった。職員の皆様や関係者の本特別展にかけの思いや熱意が伝わってきた。今後も、特別展の企画には、『わくわく感』があり、子どもたちのニーズや機会を捉えたタイムリーなものを期待したい。</p> <p>⑫ダンボール恐竜遊園地は2歳の息子も楽しませてもらいました。博物館の前を通る度に「恐竜いるかなあ」と言うくらい印象に残ったようです。</p> <p>⑬入館者数の目標達成。常設展は、宮崎の姿が分かり易く、訪れるたびに新鮮さを感じ、興味は呼び起こされておりました。年に20回もの展示替えを行ったとのこと、大きく評価します。</p> <p>⑭昨年度と同様、常設展年15回の評価指標を大きく上回り、年20回実施されたことは高く評価できる。</p> <p>⑮常設展示室における資料入れ替えがあると定期的に来られる人にとっては大変ですがうれしい事です。</p> <p>⑯常設展の展示替えを適宜行っていることとみやはくデジタルミュージアムに取り組んだことを評価しました。また、特別展「毒モンスター水族館」と「化石タイムカプセル」は、内容が充実していて観客の評価も高かったことを評価しました。</p> <p>⑰特別展は、年々充実を感じます。宮崎県ならではのアプローチ感もしみ出ていて親しみやすいものとなっているように思います。エントランス展示も学習の導入として定着を感じます。展示場では、キノコとコンクリーションについても興味を感じさせられます。</p> <p>⑱入館者数は目標を大きく上回っている。エントランスロビー展示の工夫が、ワクワク感・ドキドキ感に通じていて、博物館のロビーにふさわしいものとなっていた。</p> <p>⑲入館者数が目標値を大きく上回っており、内容のおもしろさ、ネーミングの良さ、またキッチンカーが来たり、「遊びに行く場所」としての魅力発信ができたのではないかと思います。</p>		
3) 特別展	実施回数	年3回	主催事業 3回 貸館事業 1回	3	<p>⑧主催事業として、3回の展覧会を開催した。全国を巡回する自然写真の展覧会で第44回SSP展」を春に実施した。夏の特別展は、海に生息する「毒」をもつ多様な生きものを中心に展示し、未来の海と地球環境について考えてもらう機会とする「毒モンスター水族館ー海のキケンな生きものたちー」を実施した。秋は、県内で見られるコンクリーションをテーマに名古屋大学博物館との共同主催による「化石タイムカプセルーコンクリーションーの謎をとくー」を実施した。展示では、最新研究の成果をもとに、その成因を紹介し、国内外のコンクリーションやそこから産出する化石を多数展示した</p> <p>⑨来場者数は、「SSP展」が11,943人、「毒モンスター水族館」が66,156人、「化石タイムカプセル」が13,554人であり、貸館事業を含む特別展観覧者総数は124,287名であった。夏の特別展は夏の展示会としては過去二番目の入館者となった。特別展の広報は、来場者に大きく影響するため、今後も工夫が必要と考える。</p> <p>⑩本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」「大変良かった」が「SSP展」では93%、「毒モンスター水族館」では93%、「化石タイムカプセル」では98%であり、高い評価を得ることができた。</p>			

						<p>⑳ 来場者数がこの10年では最多となったとのことで、大変喜ばしい事だと思います。来場者を飽きさせない企画の立案や、日頃の情報発信の賜だと思います。この数年でみると、放課後児童クラブの団体利用が増えていますが、市町村との連携などがあつたりしたのでしょうか？児童クラブの拡充などが進んでいるので、今後も積極的に呼び込むのはよいと思います。</p> <p>㉑ 夏の特別展が好評だったことに加え、猛暑により屋内施設が選ばれたのも追い風になったのでは。空調設備の能力強化により万全の体制で来館者をお迎えできるようお願いしたい。</p> <p>㉒ 展示や解説に工夫がみられ、入場者増につながっているのではないかと。ただ、中高生・大学生くらいの層の利用者がやや少ない印象がある。学術的にも興味深い展示内容なので、若い世代にも来館し興味を持ってもらいたい。</p> <p>㉓ 来場者へのアンケートは、特別展(3回分)では満足度は高いという評価を得ているが、常設展やエントランス・ロビー展に対する来場者の反応、アンケート等の把握はないのでしょうか。</p> <p>㉔ 常設展示室の戦争の展示は、もうひと工夫ほしいところだと感じる。親子や三世代で訪れたときに話の展開がしやすいようなものができないだろうか。護国神社の展示はいくつかそのような物があった。</p> <p>㉕ 特別展の時期に来場できない方々にとっては、常設展の更なる充実を望んでいると感じる。常設展でも素晴らしい取組をされているので、それをさらにアピールできるように広報の工夫が望まれる。</p> <p>㉖ 全体の入館者が増えているのに対し、民家園入館者は、昨年度よりも減少している。民家園の魅力をもっと知らせていくとよい。</p>	3.5	3.9
4) ロビー展	実施回数	年15回	15回	<p>㉑ 1階のエントランスホール(エントランスケース、展示スペース)や2階の民俗展示室前ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら、トピックや季節に応じて全15回実施した。内訳は各部門の企画展示9件、県その他機関・学校の展示6件であった。各部門の展示に際しては、関係機関6か所より協力を得て実施した。</p>	3			

(4) 教育普及

項目	評価指標		令和6年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1) 学校教育支援	授業支援	年30回	19回	①・児童・生徒への授業支援は、13校で計19回実施した。 ②授業等への支援として、各部門の資料貸出しを行っており、今年度は小学校2回、中学校2回、大学1回を実施した。大学では、教職員志望の学生の講義で岩石標本等が活用されている。 ③職場体験学習の受入れとして、県立高校(2名)と宮崎市内の中学校4校(8名)の施設研修を実施した。宮崎市内と都城市内の中学校2校には職員を派遣し、博物館における学芸業務についての職業講話を行った。 ④博物館実習は4大学6名の実習生を受け入れ、成果発表として企画展示を2階ロビーで行った。 ⑤今後も計画的に学校教育支援に取り組み、博物館の学校支援メニューや資料貸出しの紹介を行うとともに、博物館法の改正により努力義務とされている地域の活力向上への寄与について、アウトリーチを含む教育関係施設等での資料活用や開発を進めていく。	3	①児童や生徒だけでなく、大人も惹きつける内容となっていた。 ②授業支援や実習受け入れ等、次世代を育む取組で素晴らしい。 ③春まつりは、幅広い年齢層に好まれていて、今後の取組が楽しみである。 ④学校支援は目標値を達成され、博物館実習も6名が参加してロビーの企画展示ができたことは成果だと感じます。 ⑤博物館が地域の文化、自然科学に関わる人材を育てることで地域の活力向上に繋がることを期待します。 ⑥関係機関との連携も目標を大きく上回り評価いたします。 ⑦博物館講座は天候に左右されるものもあり回数が減ったかもしれませんが、内容はどれも興味深く、バランスの取れた講座テーマだったと思います。 ⑧宮崎の自然研究発表会、今年も私は参加できず内容はわかりませんが、継続されていることが素晴らしいです。 ⑨団体などの発信は大変だと思いますが、職員さん達の努力で来館されていると思います。 ⑩「どこでも博物館」は、とてもよい取組である。遠方の地域であったり、障がい等があったりし、博物館になかなか出向くことができない人々にとって、博物館のことを知ってもらうよい機会になると感じている。	3.3	
	教員支援		1回					
	資料貸出		5回					
	職場体験学習受入		7回					
	博物館実習受入		1回					
		計 33回						
2) 展示解説	実施人数	年10,000人	9,973人	⑥目標値を下回る傾向は現在も続いている。今後来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味・関心を高められるよう工夫し、多くの来館者に展示解説を実施していく。団体利用に加え、個人利用の推進を図るため、展示場での案内や声かけ、広報活動を行う。	2	⑪展示解説については来館者さんのご都合に委ねるので、目標値の向上はいかんともし難いと感じますが、解説を聞くことにより興味や知識を得ることは確実に深まるので、引き続き週末のガイドツアーなど案内、声かけ、広報活動をお願いします。 ⑫博物館と福祉施設の連携は事業所のご都合によるのでなかなか難しいと感じます。しかし、博物館で思い出を語ろうという視点は素晴らしいので、引き続き広報活動をよろしく願いいたします。		
3) 博物館講座等	博物館講座等 (アウトリーチ活動含む) *博物館講座等は普及講座・特別展開連講座・民家園講座・「どこでも博物館」 *アウトリーチ活動は博物館外で行った講座の回数	年35回 アウトリーチ活動10回	計画36回 実施35回 13回	⑦主催講座は、普及講座(22回)、特別展開連講座(10回:うち1回は天候不順で中止)、民家園伝統文化体験講座(1回)、どこでも博物館(3回)の計35回、アウトリーチ活動は13回実施した。 ⑧自然系・人文系ともに今後も講座の質を維持しながら、参加者や地域のニーズに応じた新たな講座の開設に取り組み、県民の学びの推進に寄与していく。	3	⑬民家園はとても魅力的な場所なので、利用についての広報を引き続きお願いいたします。 ⑭学芸員や展示解説員による学術的、専門的な展示解説をもっと利用してもらうため、興味を引くような広報をお願いしたい。 ⑮外国人にとって民家園は魅力的なコンテンツになり得るので、多言語対応の取組が重要。 ⑯現在、放課後デイの仕事にも携わっており、宮崎市内には100以上の業者があると聞いている。土曜日に博物館や図書館に行くことが多く、先生方のお話を聞けることが分ると、連携がより進むのではないかと思います。発達障がいの幼児・児童も多いので、発達段階に応じて常設展示でどのように興味を引かせるのがいいかアドバイスもあると、子どもたちの情操教育にとってもいいと感じている。 ⑰小学校から大学まで学校支援に取り組んでおられることを評価しました。		
4) 民家園の活用	民家園事業の実施 ・神楽公演等 ・みやざきの昔話 ・昔の暮らし等 ・民家園利用事業 ・その他	年25回	22回	⑨毎週第3土曜日に開催している昔話公演は、9回実施し、合計182名が参加した。 ⑩昔の暮らし体験では、11月にうちやまこども園、12月に浮之城ひまわり幼稚園の園児を対象に、脱穀や昔あそびの体験を実施した。 ⑪正月準備体験では、袋入りの餅を振る舞うなど感染防止に努めながら餅つきを行った。また民家園全棟において囲炉裏に火を入れ、民家園ボランティアが昔の暮らしについて説明を行った。 ⑫民家園春まつりでは、昔の暮らし体験や昔話公演、民謡公演、琴・太鼓演奏などの催しを行い、450名の幅広い年齢層が参加した。 ⑬民家園利用事業では、外国人留学生を対象とした箸づくり体験のほか、レコードコンサート、神楽公演、コスプレ撮影会など計9回を開催し、延べ1,215人が参加した。 ⑭今年度は、民家園利用事業の希望が例年に比べて少なかった。今後とも民家園の魅力発信に努め、幅広い世代に親しまれる場づくりを進めることで、利用者の獲得を目指していく。	2	⑱学校でのどこでも博物館を活用し、地域の方々も一緒に参加できるような取組もできるのではないかと。 ⑲福祉施設との連携については、もっと幅広い施設に利用してもらうような工夫ができないかと思えます。 ⑳民家園の活用や福祉施設との連携については、情報発信の仕方や活用の工夫・改善など、課題が見られるのではないかと。 ㉑展示解説については、伸び悩んでいるので、事前広報や来館者目線の利用促進が重要である。 ㉒授業支援19回であり、昨年度よりも向上しているが、もっと学校など教育機関への周知、情報発信が欲しい。学校では、地域の地層や川・山など自然について学ぶ機会があり、地域人材を活用している。しかし、高齢化が進んでいるため人員不足という悩みを抱えているので、専門的な助言等をしていただけると助かるのではないかと。 ㉓(3)でも記載したが、民家園の入館者が昨年度よりも減少しており、心配である。興味深い取組も多く実施されているため、もっと魅力を発信できるとよい。活用事例等についても発信していただくと、多くの方々に知ってもらうことができ、更なる利用につながるのではないかと。 ㉔幼稚園児でも楽しめる展示があり、園外保育の場所として大変感謝しています。幼児の体験型の展示等が増えると、もっと魅力的になるかと思いました。触る、においをかぐ、作る、などに興味を持ちます。		
5) 関係機関との連携	・職員の派遣 ・他機関からの職員等の招聘 ・視察や調査の受入 ・資料貸出、出版等掲載 ・資料の借用、他機関調査や視察 ・共催事業の実施	年120件	187件	⑮職員派遣は、小・中・高校、大学、県外博物館などへの講師・委員として29件40回行った。講座、展示、後援会、共同研究等における他機関からの職員招聘は22件27名であった。視察・調査の受入れは13機関、館外資料貸出しは13件、資料館内利用は7件、出版物等への掲載・放映は14件であった。 ⑯本館の展示や調査研究において協力を得た関係機関は72機関に上った。夏・秋の特別展では、展示やイベントなど多方面からの支援を受け、有意義な事業を展開することができた。	4			

6)博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施	年80回	45回	⑰「博物館で思い出を語ろう!」では高齢者福祉施設の利用者を対象に地域回想法を実施した。今年度は定期利用団体が1団体減ったため、目標の達成が困難となった。今後は団体利用の増加につながる広報活動を工夫・継続するとともに、地域回想法のさらなる内容の充実を図っていく。	1		
7)研究発表会の開催	研究発表会の実施	年1回	1回	⑱県内の自然科学系団体で構成される発表会を県立図書館で開催し、各団体および当館から計9件の研究成果が報告された。参加者は69名で、分野を越えた交流と活発な議論が行われた。	3		

(5) 情報発信

項目	評価指標		令和6年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1)メディアを通じた情報発信	広報紙発行	年4回	4回	①広報誌「みやはく通信」を4月と9月の2回(第6号・第7号)発行し、県内の学校、博物館、図書館、公民館等の公共施設に配布した。また、館内掲示物として「博物館わくわく通信」を4月と10月の2回(Vol.21・Vol.22)発行した。これらの発行物はホームページにも掲載し、本館の活動内容を広く周知した。 ②博物館の情報を報道機関に提供する報道処理件数は51件であった。その報道処理等によりマスコミが報道した件数は、149件であった。 ③今後も館内の広報推進委員会を中心に、効果的な広報手段を検討し、情報発信に努めていく。	3	3.4	①SNSなど様々な方法で情報を発信されており、素晴らしい。 ②ホームページ、SNS、ポスターとイベント紹介がとても良かったです。 ③広報誌やHPなどの発行・発信が頻繁になされており、職員の方々の努力が伺える。 ④マスコミの報道をよく目にする。県民の関心を高める手立てにつながっている。 ⑤ホームページも熱心に作成していることが伝わってくる。 ⑥メディアを活用した取組が効果を上げる一方、ホームページの積極的な更新によりアクセス数が目標を上回るなど結果につながっている。 ⑦テレビなどのマスメディアより、今はインターネット、とくにSNSでの情報発信・収集が主流になりつつある中、積極的に活用し投稿されていることを評価します。 ⑧昨年度に引き続き、ホームページの更新並びにアクセスが大幅に増加したことは大いに評価できる。特に、特別展『毒モンスター水族館』のテレビCMはインパクトがあり、とても興味・関心を引いたと思う。 ⑨ホームページの更新回数は目を見張るものがあります。加えて、各種SNSも活用されているのが素晴らしいと思いました。特にYouTubeは、製作も大変だと思いますが、興味をそそられる出来上がりで、担当者に頭が下がります。 ⑩常設展や民家園、その他の情報なども今後さらに充実していただけると、更なる魅力発信につながるのではないだろうか。 ⑪SNSなどを使用できない人々にとっては、チラシやポスター等も大変効果的である。 ⑫主にInstagramの投稿を拝見している。特に野外の博物館講座の様子など興味深い写真も多いと感じている。常設展示室内の特別展示がいつもおもしろいので、頻繁にアップしてほしい。 ⑬Instagramは些細なことでも良いので、毎日、同じ時間に投稿して頂けるとありがたいです。 ⑭ホームページでは、令和4年度作成の動画のようなものができないかと思いました。Instagramも動画があるとインパクトがあると思います。 ⑮ホームページの充実の項目で、評価指標、目標値については、実績値との大きな格差がみられるため、見直しをすべきではないか。特に、ホームページの更新回数。	3.7
	報道処理件数	年50件	50件		3			
2)ホームページの充実	ホームページ更新回数	年60回	年621回	④博物館ホームページの年間アクセス数は429,333件となり、目標値を大きく上回った。これはトップページのイベント紹介や新着情報等を積極的に更新したことが要因と考えられる。 ⑤SNSでは、特別展や講座の様子、季節ごとの情報など、タイムリーで身近な話題を積極的に提供した。Instagramでは年間105件、Facebookでは107件、X(旧ツイッター)では123件、計335件を投稿した。今後も博物館全職員で効果的な情報発信に努める。	4	3.4	①SNSなどを使用できない人々にとっては、チラシやポスター等も大変効果的である。 ⑫主にInstagramの投稿を拝見している。特に野外の博物館講座の様子など興味深い写真も多いと感じている。常設展示室内の特別展示がいつもおもしろいので、頻繁にアップしてほしい。 ⑬Instagramは些細なことでも良いので、毎日、同じ時間に投稿して頂けるとありがたいです。 ⑭ホームページでは、令和4年度作成の動画のようなものができないかと思いました。Instagramも動画があるとインパクトがあると思います。 ⑮ホームページの充実の項目で、評価指標、目標値については、実績値との大きな格差がみられるため、見直しをすべきではないか。特に、ホームページの更新回数。	3.7
	ホームページアクセス件数	年500,000件 ※再設定した目標値 21,000件	429,333件		4			
	SNS投稿回数 ・insta ・FB ・twitter	年300回	335回		3			

(6) 経営

項目	評価指標		令和6年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1)博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	3,934件	①アンケート収集件数は3,934件で、目標数に達した。本館サービスに対する満足度は、「満足した」と「やや満足した」の合計が集中アンケート期間で94.1%、全体アンケートで96.0%となり、いずれも目標を大きく上回った。 ②今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に反映させる。	4	①全体満足度が96.0%（昨年と比べて4.2%増）であり、高く評価できる。 ②職員研修や避難訓練等により、職員の専門性の向上や危機管理体制の強化に努めていただき、大変ありがたい。 ③防災は心配でしたが何回もされて安心です。 ④アンケート収集の結果で、全体のアンケートで「満足度96%」を獲得しているのはすばらしい。 ⑤満足度の高さはスタッフの皆さんの尽力あってのことと思います。 ⑥毎年、助成金等にチャレンジされていて素晴らしいと感じている。 ⑦アンケートの収集数が多く、また内容も「満足」との回答が96%という数字は素晴らしいです。職員の皆様のご努力が結果に繋がっていると感じます。数字だけでなくアンケートに書かれていた小さなご意見やリクエストを大事にする姿勢でいて下さるよう希望します。 ⑧職員の資質向上のための研修会も数、内容共に評価します。防災訓練は何が起きてもいいように常にアップデート、アップグレードしていただけたら心強いです。 ⑨外部運営資金の獲得は引き続きご努力くださいますようお願いいたします。 ⑩館一丸となって努力されている姿を、各所に感ずることが出来ました。多忙な日々、職員の方々の健康も大事にさせていただきながら、発展を願っています。 ⑪アンケート収集件数、集中アンケート実施回数及び満足度等、いずれも目標やそれを上回る評価を得ていることは好ましい。また、職員の研修も実施できたとのこと、今後の職員の資質向上に期待したい。 ⑫アンケートの満足度が高いことは素晴らしいです。宮崎市以外の方が利用できるように、ホームページやどこでも博物館の取組の充実を希望します。 ⑬アンケートの満足度も非常に高く、評価できる。少数意見でも、不満がある場合は、できるだけ取り上げて、検討していただきたい。 ⑭より良い博物館にするために、積極的にアンケートを利用されていることが素晴らしいと思います。常に来館者目線に立つことで、さらに内容がブラッシュアップされることと思います。 ⑮アンケート結果により来館者の満足度が非常に高いことは大変素晴らしいこと。満足しなかった方の理由を聞く仕組みが必要では。 ⑯5～6%の方が満足できていない（やや満足できていないなど）という回答があるので、どのような意見が出たのか知りたい。少数意見は大事である。 ⑰アンケート実施について、紙ベースから二次元コードへどんどん移行し、アンケートに回答すれば特典があるようなポイント制など工夫があるとよい。 ⑱回答者の年齢層が9歳以下の年齢にかなり偏っているのが気になります。年齢層別の結果についても合わせて提示いただくと、隠れている課題を洗い出すことにつながると思います。 ⑲防災訓練に関して、帰宅困難者に対する対応などは策定されておりますでしょうか。 ⑳AEDの設置台数や防災士資格者の有無、不審者侵入時の訓練実施の有無についても明示してほしい。 ㉑外部資金への応募に関しては、要件やタイミング等もあるので件数だけの評価は難しいですが、今後も助成金・補助金に関する情報収集を行い、獲得に向けて努力を続けていただきたい。 ㉒外部運営資金獲得の応募が1件であったのは残念である。採択件数ではなく応募件数なので、積極的に取り組まれることを希望する。 ㉓築年数が経過している貴館における資料の保護・保存設備の状態を懸念している。最新の保護・保存が可能な設備を備えた館への建て替えを検討されるよう、強く要望したい。	3	3.7
	集中アンケート実施回数及び満足度	年4回 満足度80%	4回 94.1%		4			
	全体満足度	80%	96.0%		4			
2)職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	27回	③基本研修として、全職員を対象にコンプライアンス、危機管理、人権研修等を4月、9月、1月の計3回実施した。 ④県外研修等では、関係職員が学芸員研究会や協議会研修会等に参加し、職員の研修機会確保と資質向上を図った。 ⑤学芸課の各分野職員を中心に、特別展に係る県外博物館での資料調査を実施した。 ⑥展示解説員研修として、都城市を訪問し、都城島津邸、山之口人形浄瑠璃の館、大島畠田遺跡、関之尾の滝等で歴史、考古、地質に関する実地見学を行った。 ⑦今後も館内外の研修機会を確保し、職員の資質向上に努める。	4	3.5	3.7	
3)危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	4回	⑧4月に全職員を対象とした危機管理マニュアル研修を実施し、6月には日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した防災訓練（避難誘導、伝達訓練）を行った。 ⑨9月には宮崎北消防署による応急手当法の出前講座を受講し、心肺蘇生法やAEDの使用方法について研修を実施した。 ⑩1月には民家園ボランティアおよび埋蔵文化財センター分館職員と合同で、民家園における防災訓練（避難誘導、消火訓練）を行い、消火設備の操作方法についても研修した。 ⑪今後も利用者の安全・安心確保のため、危機管理体制の強化に努める。	4			
4)外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 *県基金、公共機関助成金・補助金、民間の助成金・補助金	年2件	1件	⑫「蒙古襲来絵詞（楽翁本）」保存修理事業について、「住友財団文化財維持・修復事業助成」を申請した。同事業は令和5年度から令和8年度にかけて「三菱財団文化財保存修復事業助成」を受けることが決定している。 ⑬目標としていた2件の申請には至らなかったが、今後も情報収集と検討を重ね、2件以上の申請を目指す。	2			
その他のご意見								